

## プロジェクト研究所 業績報告書（最終報告）

**【研究プロジェクトの名称】**

数的能力・金融リテラシー育成研究所

**【研究所の名称】**

実践女子大学 数的能力・金融リテラシー育成研究所

**【研究所員】**

所長	高橋 桂子（生活科学部、教授）
研究員	角本 伸晃（人間社会学部、教授）
	阿部 信太郎（城西国際大学、教授）
	猪瀬 武則（日本体育大学、教授）
	蟹江 敦子（宇都宮共和大学、教授）
	中野 裕美子（本学非常勤）
オブザーバー	渡辺 敏（生活科学部、准教授）
	深澤 晶久（大学教育研究センター、特任教授）
	串崎 扶美子（入学支援課、特任参与）

**【設置期間】**

2017 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

**【研究課題（テーマ）】**

大学生の数的能力・金融リテラシーを育成する

2015 年度と 2016 年度、キャリアセンターと連携して本学学生（日野・渋谷キャンパス）を対象に試行的 SPI 講座を開講した。その中で、学生の基礎学力の幅が想定以上に大きいこと、学べばほぼ確実に正解を得ることができるようなタイプの問題には強いこと、極めて優秀な学生がいること、などが明らかになった。本プロジェクトは、この試行 2 年間の実績に基づき、本学学生の数的能力、金融リテラシーの育成を到達目標として取り組むものである。

**【研究概要】**

本プロジェクト研究所では、①SPI 講座の展開（教育還元）、②図表、空間認識力の向上講座の展開（教育還元）、③金融リテラシーに関する集中講座と研究の実施（教育・研究活動）の 3 本が主な活動内容である。活動スタート当初、2017 年度は①や②が中心であったが、2018 年度以降は③を中心とした活動を行った。

【研究実績（研究員の活動実績含む）】

**2017年度**

◎ SPI 講座の実施（高橋・角本）

TA の力を借りながら、大学 1・2・3 年生（希望者）を対象に、本学学生が SPI を回答するときの弱点を意識した SPI 対策講座を、日野キャンパスと渋谷キャンパスで複数回、開講した。講座は 1day で、参加者の学年、学部、学科も異なる。米国フロリダ州で実施された実験では、女子は「算数は、友達と教え合うことで理解を深めることができる」という報告がある。初対面の友達同志でも遠慮せずに教えあうことができるよう、TA にも協力してもらいながら行った。事後アンケートからは、「TA さんが優しく教えてくれた」「友達同士で教えあうことが出来たことで、理解できた」といった回答がみられた。

◎ 図表、空間認識力（蟹江・高橋・中野）

二次元＝図表は読み込めても、三次元＝空間となると、本学学生たちの読み取り、推理、理解力は不足している。この点を向上させるためのプログラムを開発し、講座を実施した。

◎ 金融リテラシー（阿部・角本・中野・高橋）

VISA のテキスト『金融リテラシー入門』を用いて、算数力が高い学生向けに、現代の新たな教養といえる「金融リテラシー」を学ぶための集中講座を新規に開講した。「給与明細」、「雇用保険」領域は問題なく理解できたが、直接金融である「株、債券、投資信託」に関してはまだイメージ途上という印象を受けた。

**2018年度**

◎ SPI・公務員講、立体認識講座（高橋・角本）

- ・ 2018年8/3 高橋：SPI、角本：公務員講座（渋谷）
- ・ 2019年2/5 高橋：SPI、角本：公務員講座（渋谷）
- ・ 2019年2/6 高橋：3Dプリンター、3Dペンを用いて立体感覚をつける  
蟹江：立体問題を解く（日野）

SPI・公務員講座といった就職活動に直結する講座はキャリアセンターでも積極的に開講しはじめたこともあつてか、開講当初ほど人数が集まらなくなった。そこで2019年度からは、SPI・公務員講座から「FP3級」に変更して開講することとした。三次元の感覚を育成する立体感覚トレーニング（蟹江）は継続して実施する。

◎ 専門家を招聘した勉強会の開催（高橋・阿部）

- ・ 早稲田大学に短期留学していたDr. Cynthia J. Fitzthum (St. Cloud State University)を囲んだ勉強会を実施した。

## 様式 pro\_9\_1

日時：2018年11月22日（木）16：30～

場所：早稲田大学アジア太平洋研究センター 6回会議室

内容：幼児を対象とした金融リテラシー教育

なお、ウィリアム＝ウォルスタッド教授（ネブラスカ大学）を招聘した勉強会を企画していたが、悪天候によるフライトキャンセルとなったため、開講できなかった。

日時：2019年2月1日（金） 16:30~18:00

場所：早稲田大学 国際会議場4階 共同研究室（7）

内容：「米国のパーソナル・ファイナンス教育の調査・研究成果」

講師：ウィリアム＝ウォルスタッド教授（ネブラスカ大学）

### ◎ 「2018 金融調査」の実施（高橋・阿部・蟹江・中野）

・2018年秋、首都圏を中心とした7大学を対象に実施、回収数は780サンプル

・学会発表：ICEASS、シンガポール（Takahashi, Nakano）

題目：From knowledge-based to competency-based test items of financial literacy: Pilot test among Japanese middle-level university students

学会名：2019 International Conference on Education and Social Sciences (ICEASS).

内容：2018年秋調査の結果概要報告

・あわせて、シンガポールで2か所、訪問

①Institute for financial literacy 意見交換を行った。

②MOE ギャラリーでの金融教育に関する展示を見学。

### ◎ 専門書の翻訳（高橋・猪瀬・蟹江・中野・阿部）

*Handbook of Financial Literacy*

・全43章の和訳を行いながら、研究会で各自が報告し、金融リテラシーに関する先行研究の結果を共有・議論した。

## 2019年度

### ◎ FP3 級講座＋立体認識講座

・FP3 級の担当は高橋・角本・蟹江・中野・阿部。

・9月試験に間に合わせるため、前期、補講的に数回、開催した（担当回数：角本2回・蟹江4回・中野3回・高橋8回・阿部2回）。生活科学部生活文化学科3年生の5人が受講。日野と渋谷、両キャンパスで実施した。その結果、9月受験では5人中4人が、次の2月受験で論文のみ不合格だった1人が合格。さらに、FP3級に合格した1名がFP2級試験に挑戦して合格した。

## 様式 pro\_9\_1

### ◎ 専門家を招聘した勉強会の開催

9/21, 渋谷キャンパスで神谷哲司先生（東北大学）を招聘し、ファイナンシャル・リテラシーに関する尺度構築に関して講演いただき、意見交換を行った。

日時：2019年9月21（土）13:00～15:00

場所：本学渋谷キャンパス 402講義室

内容：ファイナンシャル・リテラシーと尺度開発

一般公開、出席者 10名

### 2020年度

◎ 金融リテラシーに関する国際調査の実施・分析・学会発表（高橋・阿部・猪瀬・蟹江・中野）・アメリカ経済教育協議会(CEE)が作成した「金融リテラシーに関するテスト(金融リテラシーテスト **Test for financial Literacy, TFL**)」を現著者の許可を得て日本語に翻訳して調査を実施した。

◎ 2018年、2019年調査をベースに、2020年独自調査表を作成。日本 1000、アメリカ 300、韓国 300 のインターネット調査を実施した。現在、分析中である。

◎ 「行動経済学アプローチによる金融行動、金融リテラシーの実験」を行う予定であったが、コロナ禍でオンデマンド講義になり、学内外で被験者募集が難しくなったため、断念した。

### 【研究活動における成果】

#### 1. 雑誌、学会発表、図書等

### 2017年度

#### 論文

- ・ 角本伸晃、2017、「富山の土産品開発—現状と課題—〈調査資料〉」（査読付）、『日本観光学会誌』第 58 号

#### 学会発表

- ・ 高橋桂子・田部井美穂(2017)「同期よりも早く出世したい」という昇進意欲に男女差はあるか：20代大卒総合職を対象に、日本家政学会第 69 回大会(5/27-28、奈良女子大学)
- ・ Takahashi keiko & Fujii Mayu, 2017, Effects of Japanese fathers' participation of child care and household work on their own marital satisfaction and psychological well-being, IFHE, St. Angela's College, Sligo, 21st – 25th March
- ・ 猪瀬武則・山根栄次・宮原悟・栗原久・高橋桂子・服部一秀・小貫篤(2017)18歳選挙権時代の経済教育プログラム開発：公共経済学・法と経済学をふまえた政策決定能力育成をめざして、日本社会科教育学会第 67 回全国研究大会（9/17、千葉大学）
- ・ 猪瀬武則・山根栄次・栗原久・宮原悟・高橋桂子・服部一秀・小貫篤(2017)18歳選挙権

## 様式 pro\_9\_1

時代の経済理解調査:報告と検討、経済教育学会第33回全国大会(9/30、富山大学)

- ・ 猪瀬武則・山根栄次・栗原久・宮原悟・高橋桂子・服部一秀・小貫篤(2017)18歳選挙権時代の経済理解調査:公共経済・法と経済を基底に、全国社会科教育学会
- ・ 蟹江教子・室雅子、2017、「保育者のキャリア形成プロセスについての検討」,第70回日本保育学会(川崎医療福祉大学)

### 2018年度

論文

- ・ 高橋桂子・数野千恵子・牛腸ヒロミ・細江容子・須賀由紀子(2018)「新選家政学」を読み解く(その1)、女性と文化(下田歌子記念女性総合研究所年報)、5号、35-39(担当箇所)
- ・ 猪瀬武則・高橋桂子(2018)「高校生の経済倫理理解とハイトの道徳的基盤の関連性:経済倫理について高校生はどう理解しているか」実践女子大学生生活科学部紀要、55号、43-52(2018-03-09)
- ・ 高橋桂子(2018)「10年間の学会活動(2008~2017);その他」日本家政学会誌 Vol.69 No.5(2018/05)
- ・ 蟹江教子、2018、「小学校入学前の園外教育は有効か?」,お茶の水女子大学発行、『JELS第19集 細分析論文集(7)』pp.21-27.

学会発表

- ・ 猪瀬武則・栗原久・宮原悟・高橋桂子(2018)「18歳選挙権時代の経済教育内容開発:リバタリアン・パターナリズムの扱い」経済教育学会、9/30
- ・ Inose Takenori & Takahashi Keiko, 2018, The Association between understanding the ethical foundations of economics and Haidt's moral foundations for Japanese senior high school students, The Asia-Pacific Network for Moral Education Twelfth Annual Conference, 26-30 April, TAIWAN
- ・ 角本伸晃、2018、「観光土産品の経済分析—菓子類を中心として—」平成30年度第1回経済政策研究会(於;愛知学院大学名城キャンパス)
- ・ 蟹江教子・室雅子、2018、「園長および保育者からみた研修ニーズについての検討」,第71回日本保育学会(宮城学院女子大学)

### 2019年度

論文

- ・ 角本伸晃、2019、「観光土産品の現状と土産品店の立地—菓子類を中心として—」、「経営総合科学」(愛知大学経営総合科学研究所)第112号

学会発表

- ・ 高橋桂子・小林史奈(2019)「女子大学生のリーダーになることへの自信:日常場面と

逆境場面で規定要因は異なるか」、日本家政学会（四国大学、5/25）

- ・ 高橋桂子・阿部信太郎・猪瀬武則・中野裕美子(2019)「金融経済知識を規定する行動特性は何か?」、経済教育学会（名古屋経済大学、9/29）
- ・ 高橋桂子・阿部信太郎・猪瀬武則・中野裕美子(2019)「日本の大学生の金融リテラシーの現状と課題: 計量分析から見えてくること」、経済教育学会（名古屋経済大学、9/29）
- ・ Takahashi Keiko, Abe Shintaro, Kadomoto Nobuteru, Kanie Noriko and Nakano Yumiko, 2019, Do behavioral characteristics affect the score of financial literacy among Japanese students?, CEE (10/4-5, Los Angels)
- ・ Takahashi Keiko, Abe Shintaro, Kadomoto Nobuteru, Kanie Noriko, and Nakano Yumiko, 2019, From knowledge-based to competency-based test items of financial literacy: Pilot test among Japanese middle-level university students, International Conference on Education and Social Sciences, Singapore, 2/12-15
- ・ 角本伸晃、2019、「観光土産品（特に菓子類）の経済分析—土産品小売店の集積メカニズム—」2018年度日本観光学会中部支部大会（於；南山大学名古屋キャンパス）
- ・ 角本伸晃、2019、「観光都市の検出について」2019年度第1回観光経済経営学ワークショップ（in 奈良県立大学）
- ・ 阿部信太郎・高橋桂子・猪瀬武則・中野裕美子(2019)「日本の大学生の金融リテラシーの現状と課題: 米国の標準テストによる測定結果の分析」、経済教育学会（名古屋経済大学、9/29）
- ・ Kanie Noriko, Takahashi Keiko, Abe Shintaro, Inose Takenori, Kadomoto Nobuteru and Nakano Yumiko, 2019, Research on Financial Knowledge of University Students Attending Middle-Ranking Universities in Japan, ARAHE(中国・杭州、8/20)

## 2020年度

### 論文

- ・ 高橋桂子、2020、「家計知識」や「金融経済知識」を規定する行動特性は何か、経済教育、39、151-154 (What are behavior characteristics which affect the knowledge of household and financial economics?, The Journal of Economic Education, 39, 2020)
- ・ 高橋桂子、2021.03、女子大学生の首尾一貫感覚（SOC）にレジリエンス、リーダーシップ自己効力感や制御焦点理論が与える影響、下田歌子記念女性総合研究所、7、15-33
- ・ Kuramoto Ayako, Kurokawa Kinuyo, & Takahashi Keiko, 2020, Fathers' Attitudes toward Cooking and Family Life Education in Japan, Studies in Human Sciences, 16 (1), 167-174

### 学会発表

- ・ 高橋桂子・倉元綾子・笠井直美・長谷川宏之（2020）「父親の育児参加や養育態度が未就学児の知的好奇心に与える影響」（日本家政学会全国大会、5/29、高崎経済福祉大学）  
コロナ蔓延による Canceled & 発表済と見做す

- ・ 高橋桂子 (2021. 03) 大学生は4択問題をどのように解いているのか：米国「金融リテラシーテスト」を素材に解明する (経済教育学会第36回全国大会、3/21、富山大学+ZOOM、3/21)
- ・ 細江容子・高橋桂子・水野いずみ・大澤朋子・越山沙千子 (2020) 「社会関係資本創出を想定した高齢者へのジェロントロジー教育の展開」 (日本家政学会全国大会、5/29、高崎経済福祉大学) コロナ蔓延による Canceled& 発表済と見做す

## 2. 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

### 2017年度

- ① SPI・公務員講座の実施 (高橋・角本)  
2015年度より自主的にSPI講座を本学キャリアセンターの支援をいただきながら実施。  
2017年度より本プロジェクト主催で実施。図表・空間認識力講座の実施 (蟹江)
- ② 金融リテラシー「生命保険」 (中野)

### 2018年度

- ① SPI・公務員講座の実施 (高橋・角本)  
年々履修者が減少したこともあり、SPI・公務員講座に関しては2018年度で一旦、終了することにした。2019年度からはFP3級講座を展開。
- ② 図表・空間認識力講座の実施 (蟹江) 3Dペン

### 2019年度

- ① FP3級講座の展開 (高橋・角本・蟹江・中野・阿部)  
金融リテラシーを持つことは人生100年時代を生きる若者に必要な教養と考え、今年度前期より自主ゼミとして20回弱実施。9月のFP3級資格試験では、履修生5名中4名が完全合格 (筆記+実技)、4名が筆記のみ合格という好成績を博した。

### 2020年度

コロナ禍でSPI講座は実施を中止した。

### 【研究内容の今後について】

金融リテラシーに関するこの研究は、本プロジェクト研究費を助成することで実施でき、しかも軌道にのってきた。この研究活動を継続するために、①本学プロジェクト研究所、②日本私立学校振興・共済事業団 研究振興資金に申請したところ、②が採択された。②の研究は、OECDの枠組みに基づく世代別金融リテラシーを調査するものであり、具体的には、貸与型奨学金利用の大学生・返済中の社会人を対象とした金融リテラシー、社会人1年目の雇用労働者を対象とした金融リテラシー、そして、詐欺被害に遭う確率の高い高齢者を対象

とした金融リテラシーについて調査を行う(2021-2023 年度、予定)。

あわせて、2020 年度に日本 (n=1000)、アメリカ (n=300)、韓国 (n=300) を対象に実施した、共通の調査票によるインターネット調査を実施した。現在、メンバーが鋭意、分析中である。これらかに関して、オーサーシップに基づき国内・国外学会で発表を行う。

### 【総括 (所感・達成度)】

本学プロジェクト研究所として、4 年間にわたる経済的支援を頂いたおかげで、申請当初予定していた研究成果以上のものを遂行することができたと考えます。総括にあたり、まず、心より厚く御礼申しあげます。

この研究は現在も継続中で、2021 年度は、4-6 月末の 3 ヶ月で、本プロジェクト研究所で実施した研究成果を 2 本、国際学会で発表を行った。

・ Takahashi Keiko, & Fujiwara Saki, 2021, Financial behavior and an impact of influencers among Japanese university students, ACCI annual conference, Virtual, 5/18-20

・ Abe Shintaro, Takahashi Keiko, & Inose Takenori, 2021, Current state and issues of financial literacy among Japanese university students, CTREE, 6/3

さらに 11 月の NCFR も採択されている。

・ Takahashi Keiko 2021, Parental financial socialization and healthy financial behaviors among Japanese university students, NCFR, 11 月(accept)

金融リテラシーに関する研究も、当初の本人の知識・態度・行動変数に基づく枠組みから、family socialization theory を加えた、本人が育つ過程を加味した研究枠組みや、financial competence の概念を導入した研究などへと発展している。これらに関しては引き続き、日本私立学校振興・共済事業団の研究メンバーで研究会を進めている。

学生への還元に関していえば、2018 年度より全学共通科目「数学的思考」を本学・角本伸晃先生らの 3 人で担当している。前半は高橋が算数的思考として SPI を講義し、後半は角本先生らに数学的思考アプローチから講義いただいている。さらに、生活心理専攻の学生を中心に、毎年、FP3 級や FP2 級合格者を排出できている点も成果の 1 つであろう。2021 年度 6 月には生活心理専攻の 1 年生が「統計検定 4 級」に挑戦した (結果は 7 月末)。データサイエンスの時代、算数力・数学力や統計力を大学生が身につけておくことは時代が求める資質能力の 1 つと考える。



**【決算報告】**

年度（西暦）	補助金額（円）	執行金額（円）
2017	2,047,000	1,540,602
2018	1,790,000	1,425,552
2019	2,496,000	1,617,709
2020	1,500,000	1,422,181
合 計	7,833,000	6,006,044

※年度ごとの決算は別途報告済み。

※補助金は次年度への繰越が認められているため、執行金額が補助金額を超える場合がある。